

かりば

島牧村議会広報

第142号

平成25年

1

月



総務社会常任委員会学校訪問 小学1・2年 平成24年11月22日



一般質問

- 居住施設の名称
- 新年度予算編成

主な内容

第4回村議会定例会

行政報告	2-4
審議した議案	4-5
一般質問	5-8

決算審査特別委員会	9-10
-----------	------

第2回村議会臨時会	10-11
-----------	-------

常任委員会所管事務調査	12-15
-------------	-------

その後、村政に対し議員１人が一般質問を行い、平成23年度の各会計決算は、決算審査特別委員会審査意見のとおり、全会計を承認し、続いて、総務社会、産業建設の各常任委員会から所管事務調査について報告がありました。そのほか、報告１件、議案７件、意見案１件、閉会中の継続調査を審議、いずれも原案のとおり可決し、会期を１日残し同日閉会しました。

(株)ソーイング島牧

藤澤 克 村長

行政報告

なお、11月1日付をもって
破産管財人が原告となり、北
海信川金庫に対し、(株)ソーイ
ング島牧が本年4月27日に村
から1100万円を借り入
れ、同日、北海信金に一括償

マンション等の不動産につきましては、11月30日付、札幌地方裁判所に対し担保不動産の競売の申立てを行い、12月10日付をもって競売の開始決定となりました。

裁判所の執行官により査定が行われ、最低売却基準価格が決定、その数か月後に一定の期間を定めて入札が行われる運びとのことであります。

なお、村内の土地につきましては、環境保全等の観点から村の管理下に置くこととし、債務者と任意売却をすることとして協議する予定であります。

最後となりますが、刑事告訴及び損害賠償請求についてありますが、刑事告訴につきましては、警察に対し年内の事件相談を予定しております。

また、損害賠償請求に関しては、今後民事訴訟として提起する予定であります。が、それまでに債務者の財産が散逸する様な事態が発生しない様、債務者の所有不動産の仮差押命令を裁判所に申立て、去る11月26日付にて仮差押の決定を受けております。

本決定に併せて、12月5日、佐藤氏本人に貸付金1100万円の返還請求を行っており、その対応如何により損害賠償請求を提起したいと考えております。

なお、仮差押命令申立費用

として供託金が必要となりましたので、当該費用につきましては、本定例会において補正予算として提出しておりますので、ご審議のほどよろしくお願い申し上げます。

福祉灯油助成事業

本年度につきましては、1世帯当り、基準日であります12月1日の灯油単価92円で100割分、9500円の福祉灯油購入限定商品券を支給することとし、既に12月12日より配付させていただきましたのでご了承いただきたいと存じます。

今年度の申請件数等についてであります。10月15日にチラシの全戸配付により事業周知し、11月12日の締め切りまでに171件の申請があり、条件等を審査した結果、該当世帯が164世帯、該当にならない世帯が7世帯ございました。

該当世帯の内訳は、65歳以上の高齢者世帯が157世帯、ひとり親世帯が7世帯の計164世帯であります。該当とならなかった世帯につきましては、申請世帯が課

税世帯であった世帯が4世帯、生活保護世帯が1世帯、施設等入所世帯が1世帯、居住実態無し1世帯の計7世帯でありましたので併せて報告とさせていただきます。

村づくり懇談会

村民皆様との「協働の支え合い」による村づくりの一つといたしまして、平成19年度より実施しております村づくり懇談会につきましては、本年度は、10月15日から11月12日にかけて10地区で開催いたしました。

懇談会では、「冬季間における電力確保の見通しと節電へのご協力」や「泊原子力発電所に係る安全確認協定の内容」などについて説明を行った後、住民の皆様から各般に亘っての貴重なご意見や提案を賜って参りました。

この度の懇談会には延べ51名の住民参加をいただきましたが、今後も積極的に行政情報を提供し、村民皆様からのご意見ご提案をいただけるよう引き続き開催して参りたいと存じます。

暴風雪被害状況

12月6日に発生しました暴風雪に伴う被害状況についてであります。

6日当日、午前11時24分に暴風雪・波浪警報が発令され、午後4時頃には風速毎秒25メートルという暴風が吹き荒れ村内で小規模の被害が発生しましたが、幸いにも怪我をされる方などもなく過ぎ去ったところであります。

この暴風雪による被害の状況であります。民家の窓ガラスの破損が1箇所、冬囲いの倒伏等が4箇所、ブロック塀の一部損壊が1箇所などの被害が発生しておりますが、地区住民や消防支署、役場職員により、いち早く応急処置を致したところであります。

なお、公共施設等の被害状況につきましては、選挙ポスター掲示板の倒壊が5箇所、栄浜地区の職員住宅の屋根トタンの一部損傷のほか、先般島牧農協から譲渡を受け登記手続き中であります農産物加工場の屋根が一部で剥がれるなどの被害が生じております。いずれの施設等につきまし

ても、早々に応急処置を施しておりますが、補修に要する費用につきましては、本定例会において補正予算として提出しておりますので、ご審議のほどよろしくお願い申し上げます。

泊発電所に係る新たな安全確認協定

本件につきましては、ご承知のとおり、本年8月20日開催の議会全員協議会にて、道から提案されました後志管内16市町村を対象とする「(仮称)泊発電所周辺の安全確認に関する協定(案)」について、本村議会のご意見を頂き道に報告したところであります。

その後、道より後志町村会に対し、各市町村の多種・多様な意見を加味し修正した、新たな安全確認協定(案)が提案され、意見統一を図って欲しい旨要請があったことから、本協定修正(案)についての意見調整を図る目的をもって、10月16日に岩宇地区4町村長を除く後志管内16市町村長の構成による、泊発電所周辺市町村協議会が設置されたところであります。

その後、11月5日開催され

た協議会の結果をもとに、12月4日北海道へ16市町村の要請として意見及び協定書に対する修正を申し入れたところであります。

この要請内容といしましては、協議会として、道から提案ありました修正(案)における、協定の目的に関する現行協定との整合性を図り同じ内容で整理された事、また市町村の意見陳述の機会確保を明確化した連絡会に位置付けされた事、立ち入り検査の同行に関する追記がなされた事、損害賠償についての追加記載がなされた事等については評価しつつも、協議会から次の3点の修正申し入れをしたところであり、その1点目といたしましては、原子炉施設等の新增設等についての計画等に対する事前了解について、現行協定同様条文として明記願いたい事、2点目として、新燃料等の輸送計画に関する連絡については事後報告となっているが、現行協定同様に事前連絡としていただきたい事、3点目として、風評被害に係る措置についても明示願いたい事、以上3点の申し入れを行ったところでござ

います。

これら申し入れした修正内容について、道からは、原子炉施設等の新增設等についての事前了解及び新燃料等の輸送計画に関する事前連絡のこの2点については、先に修正提案した新たな安全確認協定(案)の内容で理解していただきたいが、風評被害に係る措置についての明示については、検討する旨、回答が示されたところであります。

これらの事項につきまして、実は昨日12月17日に開催された協議会において報告されたところであり、昨日の協議の結果、これ以上の協定内容を求めることは困難であるとの意見が大半を占めたことから、本内容に基づく協定について各市町村において最終調整の上、今月12月27日に協議会を開催し、16市町村長の意見統一を図ることが確認されたところであります。

私といましては、8月に提案されました最初の安全確認協定(案)からしますと内容としては格段の進化であり、現時点におきましては、本内容を持って充分であると判断するところであります。

協議会発足当初に目指しておりました、年内の協定書締結にはいたりませんでした。が、年内には協議会の意見統一が図られ、年明け早々の新たな安全確認協定の締結となりますことを切に望むところであります。

また、本件につきまして、時間等の余裕も無かったことから本日の行政報告とさせて頂きましたが、本村地域における安全安心確保の観点からも極めて重要な事案でもあり、議員皆様のご意見等伺いする機会を設定していただきますよう申し添え報告とさせていただきます。



▼議員辞職勧告決議

佐藤伴則議員に対し議員辞職勧告を再決議。

【決議要旨】

佐藤伴則議員が代表を務めていた(株)ソーイング島牧は、破産に伴い、会社が村から受けていた会社経営に対する運

転資金の貸付など、計1740万円の未回収の損害を村に与え、返還命令に対しても何ら回答が無い。その為、民事訴訟に係る弁護士費用などに310万円を要し、村の損害は総額2050万円になった。

また、9月20日決議した議員辞職勧告に対する佐藤伴則議員の対応の無責任さは、島牧村議会の信頼までも失墜させ、村民の不信と批判は、なお高まるばかりであり、佐藤伴則議員の社会的、道義的責任は極めて重い。

よって、佐藤伴則議員は速やかに自ら議員辞職する事を島牧村議会として再勧告する。

◎全員賛成で原案可決



▼23年度一般会計歳入歳出決算の認定

▼23年度国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の認定

▼23年度簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定

▼23年度介護保険サービス事業特別会計歳入歳出決算の認定

▼23年度後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定

▼23年度合併処理浄化槽事業

特別会計歳入歳出決算の認定

以上6件の決算認定について、決算審査特別委員会後藤論委員長が審査結果を報告。委員長報告に対する審議の結果、いずれも認定することに決定しました。



▼委員会調査報告

(総務社会常任委員会)

平成24年9月20日第3回村議会定例会で調査の付託を受けた所管事務調査について、後藤論委員長が調査結果を報告。調査内容は12・13ページに掲載しました。

▼委員会調査報告

(産業建設常任委員会)

平成24年9月20日第3回村議会定例会で調査の付託を受けた所管事務調査について、中田仁史委員長が調査結果を報告。調査内容は13・15ページに掲載しました。

▼教育委員会事務の管理及び

執行の状況の点検・評価の報告

報告

教育委員会が平成23年度実施した事務事業について報告。

全体で20項目に亘る事務事業について報告があり、小中学校の学習面については、全国学力・学習状況調査の結果から、基礎学力を補うため実施した朝学習などの取組みを評価し報告されました。そのほか学務管理、学校給食及び生涯学習について実施状況と評価が報告されました。

条例改正

▼簡易郵便局設置条例の一部改正

豊浜簡易郵便局の局舎移転に伴い、局舎住所を変更。

◎全員賛成で原案可決

▼職員の旅費に関する条例の一部改正

宿泊旅費の調整及び車賃単価の見直し。

◎全員賛成で原案可決

補正予算

▼専決処分・24年度一般会計補正予算（第6号）

歳入

衆議院議員総選挙委託料403万円追加。

歳出

衆議院議員総選挙費403万円追加。

歳入・歳出ともに403万円追加し、予算総額25億1919万円とする。

◎全員賛成で承認

▼24年度一般会計補正予算（第7号）

歳入

障害者自立支援給付費国庫負担金・道負担金541万円追加、海区漁業調整委員選挙125万円減額ほか。

歳出

海区漁業調整委員選挙125万円減額、国保会計繰入金235万円減額、障害者介護給付費785万円追加、医科診療委託費702万円追加、農林産物加工場屋根補修工事200万円追加ほか。

歳入・歳出ともに348万円追加し、予算総額25億2267万円とする。

◎全員賛成で原案可決

▼24年度国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）

歳入

国保税499万円減額、一般会計繰入金235万円減額、財政調整基金繰入金1133万円追加ほか。

歳出

広域連合分賦金422万円追加。

歳入・歳出ともに422万円追加し、予算総額9513万円とする。

◎全員賛成で原案可決

▼24年度後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）

歳入

保険料17万円減額、事務費繰入金23万円減額、保険基盤

安定繰入金28万円追加ほか。

歳出

広域連合納付金11万円減額。

歳入・歳出ともに11万円減額し、予算総額2268万円とする。

◎全員賛成で原案可決

その他

▼後志広域連合規約の変更
介護保険事業のうち、包括

的支援事業及び任意事業に要する経費の負担割合を20割から19.5割に変更する。

◎全員賛成で原案可決

▼閉会中の継続調査

議会運営委員会の所管事務調査について、閉会中の継続調査とするもの。

一般質問

【長尾文裕 議員】
■ 居住施設の名称
■ 新年度予算編成

第4回村議会定例会での一般質問の内容と理事者側の回答をご紹介します。
今回の質問者は1名で、その全文を掲載しました。

居住施設の名称



長尾文裕 議員

藤澤村長

居住施設に、愛称的な名称をつけてはどうかとのご質問でございます。

改めまして、総合福祉医療センターの施設構成についてご説明いたしますと、高齢者と障害者の心身の健康を保持し、ふれあいを深めるとともに、生活の場を提供することを目的とする高齢者生活福祉センターと住民の健康を守るための医科・歯科診療所とを一体的に整備したものでありまして、平成11年2月に運営開始をしております。

更に高齢者生活福祉センターは、デイサービス部門と居住施設部門の2部門に分かれて運営しているところでございます。

問

医療センター内に居住施設が併設されてから久しいのですが、いつもこの施設の呼び方について何か愛称的な名称があればと感じている訳ですが、この際公募して名称を決定してはと考えますが、村側の考え方を伺います。

ご質問にございました居住施設につきましては、施設建設の翌年度に施行となりまして介護保険制度の進展と共に設置目的が理解され、サービスの充実と共に施設利用が定着してまいりました。

今後、住民利用者に親しみがあり呼びやすい名称がありますと、より身近な施設になるものと思われしますので、一般公募等により愛称を募集することを検討してまいりたいと考えますので、ご理解賜りたいと思います。

長尾議員

大体そういう方向性で進めて行かれたら、せっかく現在空きを待っているような状況も発生したりしていますので、最初の、開所当初は随分利用者が一歩引いていたような状況でありますけれども、



▲居住施設の玄関から、厳島神社(永豊)のお祭りを楽しむ居住者と祭りの参加者

新年度予算編成

問

閉塞的な社会状況の中、新年度予算編成をむかえる今、何か活力を感じ、村内に活気を取りもどせる様なお考えがとおりかお伺い致します。

長尾文裕 議員

今現在になればそれなりに理解されて、利用されていますので、確かに村内に他の施設で名称ひとつで直ぐに分かるようなこともありますので、それらを十分勘案したうえで、この名称を是非付けていただきたいと思います。

藤澤村長

新年度予算編成に向け、村内に活気を取り戻せるような、何か考えがないかとのご質問でございます。

平成22年1月の建設業者の自己破産に始まり、本年2月には有限会社東日本農産物加工が操業停止、更に8月には㈱ソーイング島牧の破産手続き開始決定等等、村内の雇用の場が急速に縮減しております。

また、原発事故の風評被害等に伴うと思われるような魚価の低迷や、地球温暖化等に起因するのではないかとと思われるような漁獲量の減少など、本村の地域経済を取り巻く環境は益々厳しい状況となっております。このような状況を踏まえ、新年度予算編成に当たりましては、産業振興と雇用の確保を最重要課題として取り組んでまいらなければならぬと、課題意識を持ち考えて行くところでございます。

産業振興に關しましては、基幹産業でございます水産業を中心に振興策を図り、商工会等とも連携し、単年度の対応では大変難しさもあり数年

掛かるかとは思いますが、農林水産物等を活用した特産品の開発事業に取組み、地域産業の活性化に向けた六次産業化を推し進めてまいりたいと考えているところでございます。

また、雇用の確保につきましては、昨年から実施いたしております緊急雇用創出事業について、雇用数の拡大も視野に入れ継続実施して参りたいと考えております。

なお、第2回村議会定例会において、ご質問者でございます、長尾議員の一般質問におきましてご説明申し上げたところでありますが、2月に操業停止しておりました農産物加工場が、札幌市に本社を置く株式会社CMCネット通商の関連会社であります「株式会社さんかいらく」の下で創業を再開し、もう既に7ヶ月ほど経過してございます。

先般、株式会社CMCネット通商星野社長とお会いいたしましたところ、本村に対し大変に強い関心を持たれており、村の特産品や食材の活用による地域との連携を深めて行きたいという意向も示しておられましたので、今後も事

業の取り進めについて協議を進め、雇用の場の確保につなげてまいりたいと考えておりますので、ご理解を賜りたいと思います。

長尾議員

前回これに補足した内容で、私も一般質問しましたけれども、相変わらずの答弁で、確かに何年か見据えたような状態で振興策検討されているということではありますけれども、確かに今現在も守らなければならぬんですが、それ以上に5年先10年先の島牧どうするのという、この部分何かもっと具体的な発想があつてよいのではないかと、またその決められないまでも、2点なり3点なりこれはどうかというものがはっきりあるのかないのか、今村長の答弁聞いていると、私は申し訳ないんですけれどもまだ見えていないんだなというしか受け止められないんですよ。

特に今年のこの春から今日に至るまで、藤澤村政とすれば、大変な汚点を1つのみならず、私2点あると思つてますよ。

それというのは1つは雇用

の場の確保、これが完全にソーイングの倒産によってなくなった。

もう1つは、島牧建設事務所跡地、これはこれから5年10年先の島牧として、村としてのインフラ社会資本整備考えたら、絶対あそこは村で買っておくべきだったと、これ取り返しがつかないですよ。

そういった中で、今までもよく農産物でアスパラアスパラと言っていますけれども、昨日も私農業者の方とちょっと雑談的に話しましたけれども、アスパラアスパラっていうけれども、じゃあどれだけの生産量があるのか、またその供用年数というのか、アスパラを作付けしてから今日までのかなりの年数が掛かっているのか、もうそろそろ新規に取組まなかったら全然追いついていかない。

それと、これは各方面から言われているでしょうけれども、農地遊休地の再利用・再活用、先だってNHKのニュースでもちょっと出てましたけれども、道北のほうの士別ですか、サホークでキロ1万円をつけたというニュースのコメントも入っていました。

やはりですね、これから5年先10年先、この仕事について、この島牧で生活して家庭が持てるよと、そういう産業を民間、それは民間が主になれれば良いのですけれども、今、一個人なり一民間企業、そこまでの余力はありませんよ。であるならばやはり村として自治体として、農業はこれを、漁業はこれをそういう柱を見せていただかないと、私はとてもとても残ってはいけないのではないかと、他町村を比べるとそれなりに今試行錯誤しています。じゃ

我が村でそれがいいのかと。いったら、私無いいのではないかと、それがもの凄く残念でならないんですけれども。もっと具体的にここでは新年度予算編成ということではお尋ねしていますけれども、村長がこの任期の間にこれから5年先10年先、島牧のために来年また再来年にかけて、本当にこれからの島牧のために何をすべきか、また何を残して何を伸ばすべきか、そこまでつめるくらいの考え気持ちあるのか無いのか、ちょっと再度伺いたいのですけれども。

藤澤村長

具体的な事例、また様々なお話ございました。

最後の1点、中期的展望に立ってのやる気があるのかなのか、当然それはございます。

先に指摘されました2点の問題、これらも私としては、なんとかソーシングも継続してやって行きたいという思いも多々ございましたし、島牧建設の事務所跡地につきましても、なんとか購入したいというのを強く申し述べながら、対応していたところでございますが、中々現実的にそのようなことにはならなかったという部分、それと具体的に何かをやってみせなければなかなか農漁業による生活を営んでいくということが、なかなか後継等の問題等も生まれないのではないかと、具体的に何を村が直接的に範を示しやれるのかと、その辺も様々な難しさがあるかと思えます。

中々、村が直接的にとは難しさもあるかと思えます。事例的な言い方の中でのアスパラの問題もございました、まさにその通りだと思

ます。

私は、やはり作物という1つは見方もあるかもしれませんけれども、もう1つはうちの村はどうしても、小規模農業等が主をなす地域であると考えらるならばむしろ、有機、

低農薬を村自体が、農業者自身がそういう方向にシフトしていくとかですね、作物作りをしていくとか、そういうような考え方等もできないのかということは、機会あるごとに話はしたことはございます。中々、それらに対して踏ん切りをつけていくということが、農業者の皆さんも難しさは抱いているようにございます。

また、そういった意味から、今農協がああいう形になってから、皆さん非常に、そういうリスクを負うことに対しての不安感もあるのかなという思いはいたします。

とは言うものの、農業者・漁業者の皆さんも、一歩前に進んでいく勇氣を持ちながら、一緒にやっていたのかなと、その全てが、村が、私とその全てを具体的に示しながら云々といっても、中々やはり難しさがあるのも事実だ

ということも、ご理解いただきたいと思います。

長尾議員

この島牧という、この地の利これを生かすということからは、第一次産業、漁業なり農業なりこれに新規に係わってもらうような、そういうそれらの振興策、それらを示すことだとして出来るのではないですかね。

それは確かに今農協がなくなりまして、でも海のほうの漁協さん残っています。そういった中で、例えば漁業に関する新規組合の開発という

か、それは村内に限らずですね、村外からも入ってきて、新たに漁業でも農業でも、やりたいという方に対する村として支援できる部分もぼくはあると思うんですよ。それらも含めてもっともって考えなかったら、今だったらただ本当に前からの財産食いつぶして、最後は本当は誰も居れなくなりましてよこの村、それで本当に良いのかということですよ。そうじゃない、やはり確かに少子高齢化という大きい流れはあるのかも知れませんが、でもその中にはやはりオギャーって生まれた

ての赤ん坊から、今日明日に死ぬかもしれない年寄りまでも、それなりの形勢で居れるような、島牧村というものを残せるような、それというのは産業、仕事がないことには残れないんですから。最終的にどれを選ぶのかは、それは本人にしても、村として実際としての限度はあるかもしれないけれども、それらの方に最大限応援しますというそんなものがあっても良いと思うんですよ。

それらも含めて、また日を改めて。以上で結構です。

住民の思い、議会の意思を意見書として 意見書を提出

次の意見書を可決し、関係機関へ提出しました。なお、紙面の都合で内容を要約して掲載しました。
(第4回定例会)

● 泊原発の再稼働断念・廃止、大間原発の建設中止、自然エネルギーへの転換、幌延深地層研究センターの廃止を求める意見書

福島原発事故から1年9カ月余りが経過しましたが、今も放射性物質の拡散が続く、事故収束の見通しさえ立たないままです。原発事故は、二度と繰り返してはなりません。

多くの国民と道民が、今の原発が未完成の技術で、使用済み燃料を安全に処分する技術も持たないことなどを学び、原発は再稼働せず、原発ゼロを願うに至っています。

北海道では、泊原発がなくても夏も冬も電気は足りることが明らかになり、青森県の大間原発は、対岸の函館まで23キロしかなく、しかも、泊原発でも大間原発でも、その周辺の海底に大地震を起こしかねない活断層の存在が指摘されています。

政府が進めている使用済み核燃料の地層処分については、日本学術会議が現在の科学の到達点では何万年も先の安全性を保障できるとは言えないとしています。また、地震の専門家は、幌延地域が処分地として不適地だと指摘しています。

よって、泊原発は再稼働を断念、廃炉とし、大間原発の建設を中止し、自然エネルギーに転換すること。また、幌延深地層研究センターは廃止し、東日本大震災の復興・復旧予算の流用をやめ、東北3県の復興・復旧を急ぐことを求める。



期待された
行政効果は
達成された
か？

決算

審査特別
委員会

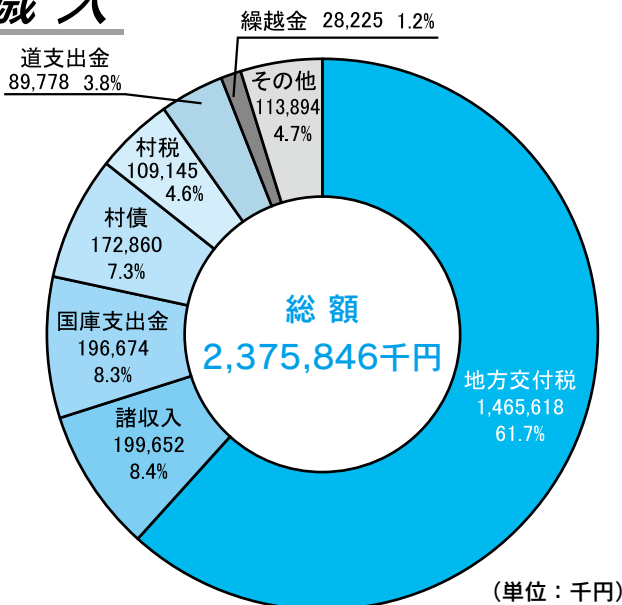
■平成23
年度
一般会計
決算

▲国民健康保険事業特別会計の決算審査状況

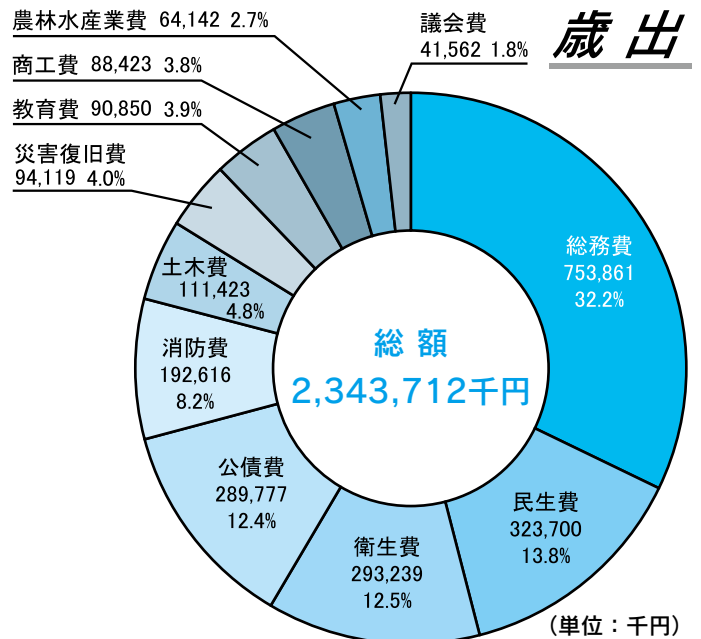
平成23年度の各会計決算は、9月20日開会の第3回村議会定例会において、全議員で構成する決算審査特別委員会を設置し、これに審査を付託、閉会中の継続調査(後日調査)としました。

11月5日に再開した決算審査特別委員会では、各会計とも原案のとおり認定すべきものとして決定し、審査結果は第4回村議会定例会において、後藤委員長が報告しました。

歳入



歳出



委員長報告の要旨 (12月18日・第4回定例会で報告)

●一般会計

産業の少ない本村において、株式会社ソーイング島牧は設立以来多くの雇用を継続し、定住人口の確保に貢献してきた。村が産業振興の一環として行った、ソーイング島牧に対する工場施設賃料の減免及び平成24年度運転資金の貸付は、議会への説明、議論を尽くさぬまま進められ、事務の取り扱いを含め不適切で、理解に苦しむものであった。

更に破産後、村が承認し破産管財人が執行した機械設備の処分は、今後、新たな企業による工場再開の可能性を排除してしまった。

村の執った一連の対応は追従的で主体性が無く、事後の対応ばかりに苦慮し、結果として住民の生活・雇用を第一に考えた対応ではなかった。

しかし、今、村が最も優先して取組まなければならない課題は、裁判における法廷闘争ではなく、住民の生活を第一に考えた産業の活性化と雇用の創出である。閉塞感を吹き払い、若い人達の定住に繋がる新たな発想による施策の提案と積極的な行動を願いたい。

●合併処理浄化槽事業

昨年からスタートした合併処理浄化槽事業は、本年度から集会場などの公共施設にも着手し、汚水処理人口普及率は17割に達しようとしている。

しかし、事業内容の住民周知は行っていないものの、補助制度、維持管理費及び自宅あるいは事業所のトイレ水洗化を躊躇している方がいるように思われる。

住民の立場に立った、分りやすく丁寧な説明・周知を心掛け、合併処理浄化槽事業の普及、生活環境の改善が図られるよう進められたい。

(単位：千円)

各会計別決算総括表

会 計 名		平成23年度 決 算 額	平成22年度 決 算 額	増 減	対 前年度 伸 長 率	備 考
一 般 会 計	歳 入	2,375,846	2,451,451	△ 75,605	△ 3.1%	老人保健特別会計は、老人保険制度が平成20年4月から後期高齢者医療制度に移行したため、3年間の整理期間を経て平成22年度で終了。 また、合併処理浄化槽事業特別会計は、平成23年度から新たに事業を開始。
	歳 出	2,343,712	2,396,011	△ 52,299	△ 2.2%	
特 別 会 計	国民健康保険事業	歳 入 75,392	91,781	△ 16,389	△ 17.9%	
		歳 出 74,440	91,280	△ 16,840	△ 18.4%	
	簡易水道事業	歳 入 130,620	153,453	△ 22,833	△ 14.9%	
		歳 出 130,620	153,453	△ 22,833	△ 14.9%	
	老人保険	歳 入	248	△ 248		
		歳 出	248	△ 248		
	介護保険事業	歳 入 33,273	33,009	264	0.8%	
		歳 出 33,273	33,009	264	0.8%	
	後期高齢者医療	歳 入 19,449	19,786	△ 337	△ 1.7%	
		歳 出 19,433	19,759	△ 326	△ 1.6%	
合併処理浄化槽	歳 入	76,731		76,731		
	歳 出	76,731		76,731		
計	歳 入	335,465	298,277	37,188	12.5%	
	歳 出	334,497	297,749	36,748	12.3%	
合 計	歳 入	2,711,311	2,749,728	△ 38,417	△ 1.4%	平成23年度は、差引33,102千円の黒字。
	歳 出	2,678,209	2,693,760	△ 15,551	△ 0.6%	
	差 引	33,102	55,968	△ 22,866	△ 40.9%	

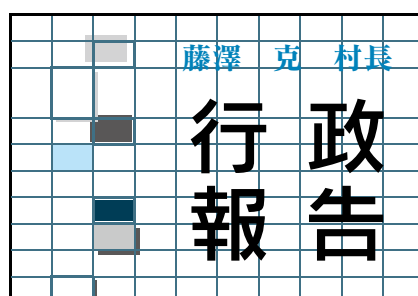


▲議案第3号「権利の放棄」について審議。解散した島牧村農業協同組合に対し貸付ていた貸付金の処理については、農協の土地と建物で代物弁済させ、それでも残る債務については債権を放棄することとした。



去る10月31日をもって、島牧村での交通事故死ゼロ3000日という輝かしい記録を達成しましたのでご報

交通事故死ゼロ
3000日達成



平成24年第2回臨時会は11月5日招集され、村長の行政報告のあと、後志広域連合議会議員に濱野勝男議員を選出。そのほか、株式会社ソーイング島牧への貸付金返還訴訟の弁護士費用を補正した専決処分・一般会計補正予算（第4号）など議案5件を審議、いずれも原案どおり可決し、同日閉会しました。

これは、平成16年8月15日から、まる8年以上続いており、全道の市町村では11番目、後志管内では3番目という素晴らしい記録であり、これも偏に、村民皆様方が交通事故の無い「安全・安心な島牧」を目指して取り組んでいる結果であろうと思うところであります。

この記録達成に対して、去る11月2日には北海道交通安全推進委員会より、表彰状並びに盾を頂きました。

悲惨な交通事故を防止し、安全で安心して暮らせる社会を築いていくことは、全ての村民の切なる願いであります。が、道内では交通死亡事故が依然として多発しており、交通事故の無い社会は一朝一夕には実現できるものではありません。

村では、警察及び関係団体と緊密な連携を保ちながら、交通安全対策を一層推進し、新たに交通事故死ゼロの目標を3500日として、交通安全運動に取り組んで参りますので一層のご協力をお願い申し上げます。

選 拳

▼後志広域連合議員の選挙

濱野勝男議員を後志広域連合議員に選出。

補正予算

▼専決処分の承認・一般会計
補正予算（第4号）

歲出

財政調整基金積立金
217万円減額、商工振興
費(株)ソーイング島牧への貸
付金返還訴訟の弁護士費用)
217万円追加。

歳出のみの補正で、予算総額の増減なし。

◎賛成多数で原案承認

▼一般会計補正予算(第5号)

歳出

財政調整基金積立金
352万円減額、集会施設浄
化槽排水設備工事317万円
追加、教員住宅浄化槽排水設
備工事152万円減額、ス
ポーツセンター浄化槽排水設
備工事79万円追加ほか。

歳出のみの補正で、予算総額の増減なし。

その他

▼物品購入契約の締結

中学校スクールバス購入
契約金額

9
1
6
万
3
7
7
0
円

契約の相手方

有限会社高島自動車工業

◎全員賛成で原案可決

▼権利の放棄

島牧村農業協同組合の解散に伴い、村からの貸付金残高3426万円のうち、代物弁済として取得する土地、建物の評価額を差引いた323万円の債権を放棄する。

◎◎ 全員賛成で原案可決

▼過疎地域自立促進市町村計

画の変更

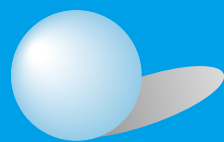
漁業資源の密漁を防止するための監視カメラを設置する事業に伴い、本計画の一部を変更する。

◎◎全員賛成で原案可決

お問い合わせは、議会事務局まで
電話75-6274



務調査



総務社会

常任委員会

委員会レポート

諭司彦史 委員長
藤清紀 副委員長
後藤高瀬 委員
佐藤中佐 委員
委員
委員
委員
委員

第3回村議会定例会(9月20日招集)において、閉会中の継続調査とした総務社会常任委員会所管事務調査は、11月22日、村、教育委員会及び学校から担当者が出席し、現地において説明を受け調査を行ないました。調査した項目と結果概要は次のとおりです。

なお、調査結果は12月18日招集の定例村議会において後藤諭委員長が報告しました。

小学校・中学校の運営

少人数学級が必然的に発生する本村の教育体制は、生徒



防災関連施設の状況

昨年の東北太平洋沖を震源域とした巨大な地震と津波は、平成5年、我々自身が経



一人一人の学力に応じたきめ細かな指導を行える環境にある。毎年行われている全国学力・学習状況調査の結果内容を踏まえ、不足している基礎学力がしっかり身につくよう指導されたい。

外国人を招いての外国語活動は、異文化に触れる機会が少ない本村において大変有意義である。基礎的な日常会話の習得を含め、より充実した取組みを期待したい。

また、スクールバスによる通学方法が影響か、児童・生徒の運動不足は以前から家庭内でも話題になっていた。今年、小学校で始めた万歩計を使用した基礎体力作りは、健康面にも役立つと思われる、楽しく継続的な取組みとなるよう期待する。

験した北海道南西沖地震の記憶を呼覚まし、テレビで繰返し流された悲惨な映像は、地球規模で発生する大自然の脅威を前に呆然とさせられるものであった。

一方、過去の天津波から学んだ経験を地域防災に活かして、子どもたちに伝え教育し、地域で取組む防災の大切さ、更に、長期に及ぶ避難生活に対する備えの重要さも思い知らされました。また、自治体が行うべき防災対策と地域或は住民一人一人が行動しなければならぬ防災がある事が認識させられました。

北海道が見直した太平洋沿岸地域の津波高と遡上域の予想は、沿岸地域の自治体とそこに暮らす住民に大きな不安と課題を投げかけました。今後、道からの資料提示を待たなければなりません。日本海側の市町村についても、防災計画の見直しは避けられないことになると思われます。原発事故を含め、災害弱者に配慮し、地域の実情に即した実行力のある防災計画と防災関連施設の整備を推進された



▶小学校。副読本を使って島牧村のことを学んでいた



▶中学校3年生の授業参観

所管事

常任委員会

委員会レポート

総合福祉医療センター の運営

開所当初懸念された居住部門の運営は、近年空を待つほどの利用が続き、潜在的な需要の高さを示している。しかし、デイサービス事業部門の利用者は、予防利用者を含め、平成21年度以降減少傾向にある。理由は様々であろうが、高齢化率の高い本村の状況から、総人口の減少が要因と思われる、総合福祉医療センターが果たす役割の重要性に替わりはない。

村では、福祉事業を通じ、お年寄りに運動、ゲーム、趣味活動、温泉入浴など、様々な機会を提供し、介護予防を図るとともに、生活に楽しさと生き甲斐を提供している。今後も引続き、高齢者自身並びに高齢者を抱える家族が安心して暮らせるよう、福祉事業の充実、発展を図られたい。

産業建設

常任委員会

史彦 中田 仁彦
清司 島崎 紀彦
豊裕 藤川 文裕
長瀬 瀨戸 長
濱野 勝男

委員長 中田 仁彦
委員 島崎 紀彦
委員 豊裕 藤川 文裕
委員 長瀬 瀨戸 長
委員 濱野 勝男

第3回村議会定例会(9月20日招集)において、閉会中の継続調査とした産業建設常任委員会所管事務調査は、10月25日、村から担当者が出席し、現地において説明を受け調査を行いました。調査した項目と結果概要は次のとおりです。

なお、調査結果は12月18日招集の定例村議会において中田仁史委員長が報告しました。

縫製工場の現状

(株)ソーイング島牧に対し村が貸付けた運転資金1100万円、その担保としていたミシンを始めとする機械設備は、担保物件としての

権利を村が強く主張しないまま破産管財人の管理下に入り、換価のため工場から運び出され、調査当日の工場内は廃屋に等しく、虚しく残念な状況であった。村の一連の対応は、公費で貸付した運転資金の回収に関し、村が被る損害を少しでも縮小しようとする発想、努力が見られず、思

▶ 小学校の授業参観。6年生の版画作り

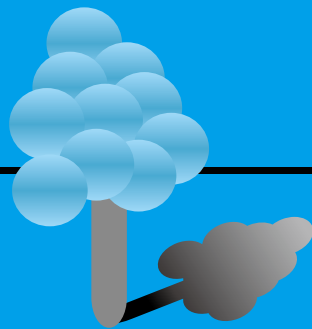


▶ 道の駅防災拠点整備事業について説明を受ける



務調査

委員会レポート



慮に欠けた行為である。

村有機械設備及び担保物件を破産管財人の手に委ね処分してしまった事は、今後、この縫製工場を借受け、経営規模を縮小或いは形態を変えて工場を再開し、雇用を生もうとする新たな企業参入の可能性を皆無にしてしまった。

国内経済が冷え込む中、本村においては企業が相次ぎ倒産し、雇用問題は村が積極的に取組まなければならない最重要課題である。村は、若い人達がこの村で働き生活できるように、知恵を出し、情報を集め、積極的に行動し、工場の空施設についても活用の道を探り、地域産業を活性化し雇用創出に繋がりたい。

林道及び河川の現状

村内の道路は、開拓期に開削され、鉱物資源の採掘、或いは農林水産業の発展・拡大に伴い整備が進み、改良を経て現在の道路網を形成してき

たが、今日では観光面においても役割を果たしている。

本村の最も北に位置する村道歌島高原通線を上り歌島高原に立つと、樹々の植生が無く360度視界が開ける。積丹半島から雷電海岸を遠くに望み、眼下には寿都湾、振向くと眩しいほどに輝く日本海、左に風車を戴く月越高原と広大な牧草地を見て、大平山と狩場山を挟み茂津多方面までの雄大な大自然を展望することが出来る。歌島高原は素晴らしい観光資源である。歌島高原は村の観光ガイドマップに搭載された観光地であるが、関係者以外、訪れる人や車両も少なく、観光地として活用が図られていない。道路の維持管理と併せ積極的な活用が図られるよう検討されたい。

千走川千走第4取水施設は、取水口付近の河床低下により、その役目を十分に果たせず、冷水地区の稲作農家は大変な苦勞をして稲を育て今年刈入を迎えた。水田における水の重要性は云うまでもないが、水管理の難しさから稲作を諦め農地を放棄する事態にならないよう、農協から

引継いだ水利権を継続し、引き続きこの地域で営農していただけるよう施設の改修整備を検討されたい。

歌島地区簡易水道の現状

水源の枯渇に因る富浦地区の断水は、圧送ポンプ等を応急設備する事により解消され、現在は一応の安定供給が行われている。

新水源地の調査は現在順調に進捗し、今後揚水試験を行い、水質を確認する事になるが、地域住民に安全で安定した水道水を供給できるよう慎重に調査し、需要の推移を見極め施設整備を計画されたい。

道の駅の現状

▶ 千走川左岸の決壊箇所を調査



▶ 千走川第4取水施設の取入れ口を調査



事 管 所

常 任 委 員 会

委員会レポート



道の駅については、近年、農産物の販売コーナーの設置、軽トラ市の開催など多目的に利用が図られつつある。しかし、統計資料が示すとおり、村への観光入込数と道の駅入場数は共に下降線を示し、島牧村観光の中核であるべき道の駅は利用者の姿も疎らで寂しい様子である。道の駅を活性化させるには、経験、能力、発想力に富んだ人材が必要である。運営の中心となるような人材を登用し、道の駅を中核とした活気ある観光産業の振興を図りたい。

また、観光施設には観光客の立場に立った配慮が必要である。ドライバーから見た取付け道路の見通しと入り易さ、大型バスに配慮した駐車場の配置など、道の駅にとっては大切な条件である。現在、国が進めている防災拠点整備事業の必要性は十分理解するが、取付け道路付近における防災用備蓄庫の配置は、観光施設にとって配慮に欠けるものであり、工夫、改善を検討されたい。

監視カメラ設置事業

今年度から着手する監視カメラ設置事業は、近年の悪質で組織的な密漁者から漁業資源を守り、浅海漁業者の生活基盤を確保する、必要で重要な事業である。漁業者が自ら巡回監視する現在の密漁取締りは今後必要ではあるが、時間と労力に限界があり、茂津多方面など住家が無い地域はどうしても取締りが手薄にならざるを得ない。

事業の実施においては、監視カメラ設置位置を工夫し、密漁監視の取組みを周知するなど、より効果が上がるよう、関係機関とも協議し事業を推進されたい。

野生動物による農業被害

近年道内では、野生動物の出没情報や農業被害が多数報告されている。

本村においてもシカ等の出没情報が寄せられ、村は農業被害の実態調査を行ったものの、全農家を調査範囲とするものではなく、調査は不十分なものであった。前年も指摘したとおり、今後の対応策を図るうえからも、農業被害の実態調査は必要と思われる。

農業者の高齢化や農業の小規模化に伴い、野生動物により繰返される農業被害は、より重く農業者を苦しめ、営農意欲を後退させている。きめ細かな行政からの支援が農業の活性化に繋がるものと考え

る。また、農業被害を未然に防ぐため、猟友会の協力を得て、野生動物の追払い、駆除は必要であり、有害鳥獣解体処理施設整備についても事業の進捗が図られるよう留意願いたい。



シカの足跡と食い荒らされた力ボチャ



歌島地区簡易水道の水源地を調査

[10月]

- 15日 例月出納検査
- 16日 全員協議会
- 25日 産業建設常任委員会所管事務調査

[11月]

- 2日 功労者表彰式（役場 濱野議長ほか）
- 5日 第2回村議会臨時会、決算審査特別委員会
- 7日 監査委員研修会（札幌市 瀬戸川議員）
- 13日 後志町村議会議長会視察研修（福岡県 濱野議長）
- 14日 町村議会議長会全国大会（東京都 濱野議長）
後志町村議会議長会臨時総会（東京都 濱野議長）
- 15日 例月出納検査
- 22日 総務社会常任委員会所管事務調査
- 27日 後志広域連合議会（倶知安町 濱野議長）

[12月]

- 7日 南部後志衛生施設組合議会（寿都町 長尾副議長）
南部後志環境衛生組合議会（黒松内町 後藤議員）
- 10日 議会運営委員会
- 13日 例月出納検査
- 18日 第4回村議会定例会



▲小学校3年生の作品

編集
後記

■議会広報「かりば142号」をお届けします。

本号では、第4回定例会の審議内容、一般質問を中心に編集しました。ぜひご覧になって、村の方針や議会活動にご理解を深めていただきたいと思います。